

# 鶴飼橋 (つるがしばし) に立ちて



「橋はわがふる里……」の詞書ではじまる啄木の長誌「鶴飼橋に立ちて」にうたわれているこの橋の歴史は古く安政四年（一八五七年）の文書の中に「鶴飼橋流落候節云々」とある。

この場所は、北上川の流れが激しく、たえず流失をくり返し、明治以降は渡し舟による通行もしばらく続いていた。下田部落の竹田竹松氏が日清戦争に応召した際仙台近くでみた吊橋にヒントを得、兵役を終えるや橋の架設に奔走し、明治三十年（一八九七年）三月、幅五尺（一五五cm）、針金を数本よじり川幅一ぱいに渡した吊橋・鶴飼橋が完成し、北上川の兩岸の交通が確保された。

この後いく度か架け替えられ、使われてきたが、老朽化したため、昭和五十九年、当時のイメージを活かし現代的な吊橋として架け替えられた。

玉山村

案内板より

